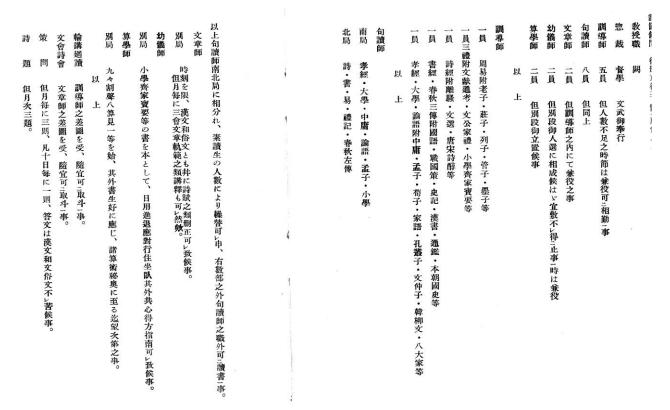
資料2:武生時代に齋藤がまなんだこと

1:英文自伝では

- ●彼の親族の一人の指導で、中国語学習(漢籍の学習)コースを開始し、それをおよそ7年間続けたが、ほんの薄い10部ほどの中国の古典しか終えることができなかった。
- ●およそ2年半でエドワードは素晴らしい進歩を見せ、かなり評判の高い書物を 500 冊読み終え、そのうえ、とても正しい文章、それも詩すら作れるようになっていた。

2:懐旧談では

- ●家では祖母に素読と手習いを習い、隣家の当時は御近習役を勤めていた別家齋藤家の主にも習ったと語っている。毎朝、『論語』と『孟子』を持って通ったと。さらに藩中の手習子や本読子を集めて寺子屋を開いていた八木という老先生のところへも行っていたと。
- ●祖母の死後、叔父の指導を受ける中では、「毎日作文を勉強し、文を作ること日々に三篇、詩を作る こと五首、読書は紙数三寸(紙の厚さで測った)読むという日課だった」と。また「往事二十一史略 を三遍繰り返して読んだものは実に齋藤一人であった」(栗塚省吾談)といわれるほど実に勉強したと。
- 3:「藩校」立教館の教育(「松井耕雪翁伝」昭和9年松井耕雪翁道徳顕彰会刊より)



4:松本源太郎が語る「立教館」での学習(『懐旧録』・松本秀彦著『母を語る』1977 年私家版) (慶応3年から明治3・4年までの足かけ4・5年間)

書籍は如何なるものを読みしや。(中略) 四書五経もありたらんか。皇朝戦略編、日本外史、十八史略、皇朝略、元明史略等ありしを覚ゆ。全部殆ど漢籍なりしと大部分主として素読なりしは確かなり。習字は無論ありたり。手本はおそらく菱湖なりしなるべし。